

# 実際のかかわりから課題が見える

3年生の三瓶さんは、教育実習後の7月から、福島市立福島第四中学校で特別支援学級の学習支援をしています。同じく3年生の渡部さんは、福島市立清明小学校の3年生の学習支援をすることになりました。

二人とも、活動をとおしながら、学校現場の雰囲気を感じ取り、課題を見つけようとしています。



特別支援学級の生徒との出会い



はじめは全体の様子を観察していましたが、教師の個別の対応を学びながら、次第に三瓶さん自身も生徒にかかわっていきました。実際のかかわりから現実の課題が見えてきます。

## 3年 三瓶 美紀

私は中学校で、特別支援学級の国語や数学の授業の補助をしています。

生徒と話す機会が増えたり笑顔を見せてくれたりすると嬉しく思います。しかし難しく感じることも多くあります。

特に、注意することの難しさを改めて感じました。生徒に対する注意は教員と生徒の信頼関係があって初めて効果を発揮するものだと思いますが、他の生徒が怪我してしまう可能性がある場合など、深く関わっていないからといって見過ごしてはいけない場合もあると思います。

私は教室の中で棒を振り回す生徒に注意をしましたが、その後時間が経ってから止めていて、自分の至らなさを感じました。「危ないよ、怪我しちゃうよ。」と言って止めなくても、根気よく働きかけること、注意すべきときはすることが大切なのではないかと思います。

教育現場で働く教員の生徒に対する接し方を生徒の様子から学ぶことは非常に多くあります。常に疑問や問題意識を持って取り組んでいきたいです。





先ずは自己紹介を



### 3年 渡部 優里

初めての学校ボランティアはとても緊張したけれど、教育実習とはまた違う形で実際の教育現場に携わることができ、とても楽しく充実した時間を過ごすことができました。

まず校長先生をはじめとする諸先生方がとても温かく迎えて下さったことがとても嬉しく、有難いなと感じました。

私は一時間目から三年生のクラスに入りましたが、教室をまわって授業中に少しサポートをしたり休み時間に一緒に遊んだりすることができました。

今回は初回ということもあり、学校やクラスの雰囲気を見ることで精一杯だったので、子どもたち一人ひとりがどんな子なのかまで知ることはできませんでした。

次回からは一人ひとりの子どもたちに目を配り、積極的に関わっていくことができるようにしたいです。今後も頑張りたいと思えるような学校ボランティアでした。

渡部さんは書写の時間に学習支援を行いました。この時間は、「折れ」の書き方に注意して書くというねらいでした。子どもたちは何度も練習し、「折れ」が思うように書けた1枚を提出しています。渡部さんはそれを笑顔で受け取り、一言子どもに声をかけてから、黒板にはっています。

【問合せ先】 学校ボランティア支援室は、疑問、困りごと、要望、相談に応じます。  
(理工107 e-mail: 齋藤幸男 [ysaito@educ.fukushima-u.ac.jp](mailto:ysaito@educ.fukushima-u.ac.jp)  
二瓶洋允 [hnihei@educ.fukushima-u.ac.jp](mailto:hnihei@educ.fukushima-u.ac.jp))

【相談時間】 月～金 (9:00～16:30)

【体験訪問】 水曜日は、保原小学校で全校『学び合い』を体験できます。